

島根県神社庁報

第367号

島根県神社庁

〒699-0701

出雲市大社町杵築東286

TEL 0853-53-2149

FAX 0853-53-2582

国民精神昂揚研修会併 三部合同教化会議報告

教化委員 佐草敏邦



出雲部会発表 八束支部
日吉神社 祢宜 遠藤裕之氏

この会合は、本年改選された県教化委員、支部教化委員を対象とし、神社本庁から講師を招聘して神道教化とは何かという基本を学び、今

七月二十四日、国民精神昂揚研修会併三部合同教化会議が、島根県神社庁で約五十名の参加を以て開催された。

後の教化活動に役立てることを企図したものである。

第一講は

三部会より活動報告と事例発表が

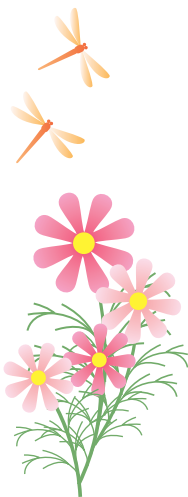


石見部会発表 大田支部
八幡宮 宮司 石崎彰矩氏

あった。活動報告は時間の関係で紙面上の報告となったが、事例発表では三部会がそれぞれ画像を見せながら発表した。発表内容は、出雲部会が松江・八束青年神職会主催の「まつえ神楽祭」、石見部会は大田支部が取り組んだ神社情報サイト「おおだ宮めぐり」、隠岐部会が島前支部から「巫女舞の実施」「紙芝居の活用」等についてであった。

目次

国民精神昂揚研修会併三部合同教化会議報告	1
階位検定講習会報告	3
神政連「選挙を振り返って」	5
神宮大麻暦頒布始奉告祭	6
氏青定期大会報告	6
庁務日誌	7
神職任免	8
神職身分昇級	8
名誉宮司称号授与	8
神職帰幽	8
社ガール通信	9
大社國學館入学案内	10
支部だより	11



ていて、当日も子どもから年配者まで多くの参加があり盛況だったことから、神楽が教化の入り口としての役割を果たしやすい環境にあることが述べられた。石見部会の「おおだ宮めぐり」については、情報サイトで有名神社に偏ることなく支部内全ての神社を紹介することにより、神社参拝が好きな方々への良い発信になるとの発表があった。隠岐部会の「巫女舞の実施」「紙芝居の活用」については、巫女舞や紙芝居の活動を通して小学校等との繋がりを密にし、子どもたちにも神社に興味を持ってもらうことが可能となる事例が紹介された。三部会三様の取組



島前支部 発表 氏 村尾由美子
隠岐部会 発表 氏 宇賀命神社 宇賀命神社 宇賀命神社

出雲部会の「まつえ神楽祭」については、他県と比べて多種多様な神楽がある島根県では神楽が広く親しまれていて、若年層から高齢層に関わる教化活動が示された良い発表であった。第二講は神社本庁教化広報部の北島一孝教化課長による「神道の教化活動について」と題した講義であった。講義内容の要約を次に掲げる。

教化の基本目的は「人を教え良い影響を与えて善に導く事」。まずは信念無くして他人を教化することはできず、そのためには神職個々ももっと勉強しなければならぬ。形式的な総代・氏子を信仰的な総代・氏子に育成していくことが大切な教化活動の姿勢である。神職として祭祀の厳修は常に変わらぬ重儀であるが、教化はその時々時代の対象者により形や方法を変え柔軟に模索する必要がある。教化の方法論としては、企画した活動を行った際



神社本庁 教化課長 北島一孝氏

には必ず振り返って検証し、その反省を踏まえて再企画して実践していくという流れを続けると、より良い教化活動になっていくのではないかと教わった。

講演終了後、錦田中国地区教化講師をコーディネーターとして北島課長とともに全体のとめと質疑応答を行った。錦田教化講師からは事例発表された三部会の方々に対して、三部会それぞれが良い取り組みなので自分たちばかりでなく行政を頼って手伝ってもらえばよいし、学校を神道教化の場として使用できるのはとても有意義なことだと話された。北島課長は、神社本庁からは教化実践目標が出され、活動大綱と方針が提示されている。これらを「若木」「神社新報」等で何割の神職が目に入理解しているか疑問である。本庁は教化活動を支援すべく様々な教化資料の作成や無償提供をしているので、積極的に活用願いたいと発言された。

今回の研修では神職として教化活動をする上での基礎を学ぶことができ、充実した研修となった。

権正階・直階 階位検定講習会を終えて

去る八月七日より約一ヶ月に及ぶ階位検定講習会(前期 権正階乙課程、直階甲課程 後期 権正階甲課程、直階乙課程)が開催された。

九月三日に閉講式を行い、修了生から謝辞が述べられた。

謝辞(前期)

僭越ながら修了生を代表してお礼のご挨拶をさせていただきます。

この夏は猛暑を越えて酷暑の中ですが空調の効いた恵まれた庁舎内で快適に講習生活を送れました。

本日、権正階講習生十四名、直階講習生十九名が全員揃って十三日間の講習会を修了できることに先ず感謝致します。

さて、令和七年前期階位検定講習会に、島根県内、県外から幅広い年齢層の講習生がそれぞれの決意と覚悟を持って集まりました。同じ目的を持つ者同士直ぐに打ち解け、朝拝、夕拝等日々の諸行事を互いに教え合い、練習を重ねた事も忘れられません。充実した講習生活を送る事



前期 権正階(乙)・直階(甲)

が出来たのも島根県神社庁の皆さまのご支援、ご配慮を頂いたお陰であり、心よりお礼申し上げます。

講師の先生方には、修養の足りない我々に親切丁寧なこれ以上ないご指導を賜りました。

神職としての心構えや覚悟に至る部分においても数多く教えを授けてくださり、神職の扉の前まで連れて来て頂きました。ご指導頂いた事を取り入れ、神と人との中執り持ちとして神明奉仕に努めます。

本日でひとまずの区切りです。

前期で終わる者はここでの経験を次に活かし、引き続き後期を受講する者は更なる努力をする事を誓います。

最後に講習期間中お世話になりました講師の先生方、島根県神社庁職員の皆様には深く感謝を申し上げますと共に、今後ともご指導、ご鞭撻戴きますようお願い申し上げます。意を尽くしませんがお礼の言葉と致します。

令和七年八月十九日

修了生代表 権正階 朝倉秀樹

修了生名簿

権正階(乙)

福門次高小酒吉福内松
脇重倉橋汀石岡島部岡
正伸克秀斎貴昌展穂亮
行悟敏樹之行弘教高太志

直階(甲)

萩川上原百合子
長谷川武香
石田村実一
花田上三
川田美三
日野美三
松尾美三
綾部美三
土屋美三
春日美三
藤井美三
三上美三
吉田美三
神田美三

謝辞(後期)

誠に僭越ながら修了生を代表いたしまして御礼のご挨拶をさせていただきます。

八月七日より私たち受講生、前期三十四名、後期三十三名は、自身の目標を持って参加いたしました。また同時に不安と期待が織り混ざる中で受講生活のスタートでございました。

そのような時に、神社庁の皆様が温かく接して下さる中で、私たちの心は少しずつ和らいでいきました。厳しさの中にも優しさが溢れ、真剣さの中にも楽しさが溢れる、そのような姿勢が、日毎に私たちの中で感謝に変わってまいりました。

私たちは出身地も置かれた環境も様々でございます。先生方は、そのような私たち一人一人に寄り添い、また真剣に向き合ってくださいました。とはいえ、前・後期合わせて、全二十六日の長丁場でございます。時には精神的にも体力的にも疲労が蓄積した時期もございました。そんな時、受講生同志がお互いを助け合い励まし合う姿を私は何度も見てまいりました。これも講師の皆様・神社庁職員の皆様の厳しくも温かいご指導のお陰だと心より感謝しております。



後期 権正階(甲)・直階(乙)

私には受講中、この神話の里 出雲の地で過ごす一瞬一瞬が宝物のように思えておりました。どんな小さなことでも心からそれを味わい、生涯経験しえないような素晴らしい時を過ごすことができました。

この度、私たちは講習を修了し、全員がそれぞれの地で日常生活に戻ってまいります。しかし、私たちはこの島根県神社庁で過ごした一ヶ月を決して忘れるこ

とはございません。こちらで学んだ知識と技能をこれからの神職人生に活かすとともに、島根県神社庁で学んだ誇りを胸に抱き、精一杯精進してまいります。

最後になりますが、島根県神社庁の益々のご発展と今回お世話になりました皆様の益々のご活躍とご健勝を心よりご祈念申し上げます。御礼の言葉とさせていただきます。

本当にありがとうございました。

令和七年九月三日

修了生代表 渡辺 伸也

修了生名簿

権正階(甲)

北川 萩 島上 原 崇武 百合子 孝克
金春 吉酒和 大 小福 渡門 福
築日 岡井田 石澤 汀島 脇林
武隆 穂昌 展悠 貴亮 伸 正
琉伸 高教 伸弘 翔之 太也 悟行

石日 石村 原春 吉津 藤綾 朝土 三志 川神 長谷川
村野 田田 日田 川井 部山 屋上 水上 村上
太美 将真 啓美 武雄 康未 慎千 好美 雄優 芹
一咲 洋美 子子 竜哉 雄央 郎朱 之子 三生 香

第二十七回参議院議員選挙の

結果を踏まえた今後の活動

神道政治連盟島根県本部 幹事長 門 屋 臣

平素は神道政治連盟島根県本部の諸活動にご協力を賜っておりますこと、先ず以て御礼申し上げます。

さて、ご承知の通り、神道政治連盟は「神道精神を国政の基礎に」を合言葉に、神社界を中心に結成されている団体です。昭和四十四年に結成されて以降、昭和から平成、平成から令和への二度の御代替り、日本国憲法改正手続きに関する法律の制定、元号法や国旗及び国歌に関する法律の制定、教育基本法の改正など国家の根幹に関わる様々な実績を積み重ねてきました。

そして、こうした実績には、神政連と活動を共にする有志の国会議員の会「神道政治連盟国会議員懇談会」が大きな役割を果たしてきました。戦後占領下の影響は今も続いており、この国会議員懇談会を充実させていかなければ、偏った思想による一部の政党やマスコミの動きが国柄を変容させてしまう可能性もありま

す。我が国の歴史・伝統と相いれない所謂「女性宮家」の創設や選択的夫婦別姓制度導入を扇動する動きなどは、その最たる例です。

最近の国政選挙を見ると、昨秋の衆議院議員選挙、今夏の参議院議員選挙を経て国会議員懇談会会員が多く所属する与党・自民党は両院で大きく議席を減らし、代わりに様々な政策を掲げる新興政党が議席を獲得していきましました。そのような中であって、島根県本部が推薦した候補では、高見康裕衆議院議員(再選・自民)と出川桃子参議院議員(初・自民)が議席を獲得しております。また、参議院議員選挙の比例代表(全国)では、神社界が唯一の推薦候補とした神政連国会議員懇談会の副幹事長である有村治子議員(自民)が四回目の当選を果たされました。既存政党への不信による逆風の中、推薦候補が議席を獲得できたのは、正に会員の皆さまのご支援の結実です。

しかし、特に力を入れて支援活動を展開した有村治子議員は、前回選挙から得票数を大きく減らしています。県内においては、六年前の参議院議員選挙時に一八〇〇票を超えていたものが、今夏の選挙では一三〇〇票未満に留まりました。

この結果を受けて私ども執行部は、会員の意識高揚に資する活動の必要性を痛感しております。世相が大きく変化し、かつ国会議員、地方議員ともに世代交代が進む中であって、改めて島根県本部の理念の徹底と、青年隊の活動充実をはじめとする組織力の強化が求められていることは論を俟ちません。有村議員をはじめ、県本部が推薦した議員を招聘しての国政報告会を逐次開催するなどし、会員の国政への関心を高めつつ、関係議員との連携強化を図ることも必要です。

各支部代議員並びに会員各位におかれましては、それぞれの実感を踏まえた建設的なご提案を是非ともお寄せください。執行部一同、神政連島本部結成時の熱意と危機感に立ち返り、県本部組織の充実に向けて全力を尽くしていく所存です。

神宮大麻暦頒布始奉告祭



典儀 牛尾 充(祭祀委員長)

奏楽 宮川 康秀(八束)

祭員 古瀬 智彦(八束)

斎主 秦 崇弘(八束)

祭典奉仕者

のもと斎行された。

去る九月十九日(金)神社庁神殿において神宮大麻暦頒布始奉告祭が忌部庁長外役員、支部長参列のもと斎行された。



島根県氏子青年協議会定期大会

去る9月6日、第59回島根県氏子青年協議会(会長 福間真吾)定期大会が金屋子神社氏子青年会主管により開催された。



総会来賓 神社庁理事 齋木正保 氏



金屋子神社正式参拝

庁務日誌

(令和7年7月～10月)

7月2日	教化委員会石見部会総代会敬神婦人会合同役員会 於 濱田護國神社(牛尾副庁長出席)	9月6日	島根県氏子青年協議会県大会 於 安来市夢ランドしらさぎ(齋木理事出席)
7月9日	運営検討委員会 於 大東町銀浪(金築参事出席)	9月9日	神宮参与同評議員会並伊勢神宮崇敬会代議員会懇親会 於 神宮会館(忌部庁長、和田主事出席)
7月14日	臨時教化委員会 於 飯石支部神社関係者大会 於 掛合交流センター(小野副庁長出席)	9月10日	神宮参与同評議員会並伊勢神宮崇敬会代議員会 於 神宮会館(忌部庁長、和田主事出席)
7月21日	広報委員会 於 教化委員総集会『国民精神昂扬研修会』 於 神社庁(参加60名)	9月11日	神宮大麻暦頒布始祭 於 内宮神楽殿(忌部庁長、和田主事参列)
7月23日	第58回官揚祭第50回船通山記念碑祭 於 つるぎ会館(佐草理事参列)	9月12日	神宮大麻暦頒布始祭 於 内宮神楽殿(忌部庁長、和田主事参列)
7月24日	階位検定講習会開講式(権正階(乙)14名、直階(甲)19名参加)	9月14日	神宮大麻暦頒布秋季推進会議 於 神宮会館(忌部庁長、和田主事参列)
7月28日	階位検定講習会開講式(権正階(乙)14名、直階(甲)19名修了)	9月18日	伊勢神宮崇敬会地方本部事務局長会 於 神宮会館(和田事務局出席)
8月7日	松江護國神社終戦記念祭並終戦八十周年記念講演 於 松江護國神社(佐草理事参列)	9月19日	神社庁長懇話会 於 神宮会館(忌部庁長、和田主事出席)
8月15日	濱田護國神社終戦八十周年臨時慰霊大祭 於 濱田護國神社(宮能理事参列)	9月28日	皇學館神社関係者懇談会 於 鳥羽国際ホテル(忌部庁長、和田主事出席)
8月16日	島根県女子神職会総会 於 ホテルリッチガーデン	9月29日	神社総代会出雲部会第1回評議員会 於 神社庁長会 於 神宮会館(忌部庁長、和田主事出席)
8月17日	石見部神職研修会 於 濱田護國神社(牛尾副庁長出席)	9月30日	「皇室」普及委員会 於 神宮会館(忌部庁長、和田主事出席)
8月19日	階位検定講習会開講式(権正階(乙)14名、直階(甲)19名修了)	9月14日	第67回旧八束郡出身戦歿者慰霊祭並八束支部神社関係者大会 於 鹿島文化ホール
8月22日	階位検定講習会開講式(権正階(甲)12名、直階(乙)20名参加)	9月18日	身分昇級伝達式(二級上・二級)
8月23日	宮司辞令交付式 於 益田支部関係者大会 於 島根県芸術文化センターグラントワ(横山理事、金築参事出席)	9月19日	正・副庁長会
8月25日	監査会・役員会 於 教化委員会	9月28日	神宮大麻暦頒布始奉告祭 斎主 氷川神社宮司秦崇弘(八束支部長)
8月27日	第69回広島県神社関係者大会 於 広島県立文化芸術ホール(忌部庁長出席)	9月29日	支部長会・総務委員会(表彰審査)・運営検討委員会・奨学金審査委員会
8月30日	令和7年国民精神昂扬神職夏季錬成講習会 於 神社庁(齋木理事出席)	9月29日	尾副庁長出席
9月3日	階位検定講習会開講式(権正階(甲)12名、直階(乙)20名修了)	9月30日	第74回神社本庁教誨師研究会 於 函館護國神社他(門・廣江両本庁教誨師出席)
9月4日	中国地区神社庁教化会議 於 松江市(牛尾副庁長、錦田地区教化講師、教化委員他出席)	10月3日	広報委員会
9月5日	教化委員会出雲部会前期総集会	10月14日	島根県敬神婦人会出雲部会総会 於 出雲ロイヤルホテル(齋木理事出席)
		10月16日	宮司辞令交付式
		10月17日	大社國學館大祭 於 大社國學館(牛尾副庁長参列)
		10月23日	松江護國神社終戦80周年臨時大祭 於 松江護國神社(齋木理事参列)

任	任	任	任	任	任	任	任	任	任	任	免	任	免	任	免	免	免	任	免
7・11・1	7・11・1	7・10・1	7・10・1	7・10・1	7・10・1	7・10・1	7・10・1	7・10・1	7・10・1	7・10・1	7・9・30	7・10・1	7・9・30	7・10・1	7・9・30	7・9・30	7・9・30	7・10・1	7・9・30
鏡神社	愛宕神社	阿吾神社	坂本神社	山地神社	平濱八幡宮	〃	〃	〃	許豆神社	御津神社	鞆前神社	〃	山口神社	〃	佐香神社	出雲大社	出雲大社	出雲大社	出雲大社
雲南市大東町	鹿足郡吉賀町	出雲市斐川町	〃	雲南市大東町	松江市八幡町	〃	〃	〃	出雲市小津町	出雲市三津町	出雲市坂浦町	〃	出雲市鹿園寺町	〃	出雲市小境町	出雲市大社町	出雲市大社町	出雲市大社町	出雲市大社町
本	兼	兼	兼	兼	本	兼	兼	兼	本	兼	兼	兼	兼	本	本	本	本	本	本
祢宜	宮司	宮司	宮司	宮司	祢宜	宮司	宮司	祢宜	宮司	宮司	宮司	宮司	宮司	宮司	宮司	宮司	宮司	宮司	宮司
今岡善博	小谷川圭	秦美由紀	〃	竹田匠汰	北畠靖朗	〃	常松秀紀	常松宏祥	〃	常松秀紀	常松秀紀	常松宏祥	常松秀紀	常松宏祥	常松秀紀	常松秀紀	宮本泰行	宮本泰行	宮本泰行
																		兼本務	兼本務
																		職名	職名
																		氏名	氏名

神職任免

(令和7年9月30日～令和7年11月1日)

神職身分昇級

二級上 令和七年九月十日付

屋裏八幡宮 宮司 齋藤文崇

二級 令和七年九月十日付

八幡宮 宮司 石崎彰矩
八幡宮 宮司 巨勢佳史

名誉宮司称号授与

大歳神社名誉宮司(出雲市野尻町) 古瀬光治
(令和七年九月八日付)

神職帰幽

益田市喜阿弥町 八幡宮 宮司 中島正紀
令和七年八月三十日 享年八十六
出雲市別所町 諏訪神社 宮司 佐々木 祐
令和七年十月十三日 享年七十二
謹んで哀悼の意を表します。
島根県神社庁長 忌部正孝

开社☆ガール通信

松江の指物師 小林如泥を学ぶ

神社建築の本殿や拝殿の「飾り」に注目して、江戸時代の指物師・小林如泥^{じよでい}を学びました。(指物師とは、釘などの金属を使わず、木材を組み合わせて調度品を作る職人です。)

神社を巡っていると本殿や拝殿の



田原神社

屋根下に龍や花、空想の生き物を形どった見事な彫物を目にします。小林如泥(1753〜1813)は松江藩松平家七代藩主松平治郷(号不昧)に仕えていました。透かし彫りが得意で繊細な木工細工をし、工芸品や建築物を手掛けています。松江では如泥の作品の影響を受けて荒川亀齋^{あらがわきさい}など技術の高い職人が活躍しています。まずは如泥の作品が見られる田原神社(松江市奥谷町122)に伺いました。

如泥の作品があるのは拝殿前の随神門です。総樺造^{けやき}の建物で屋根下の壁に彫刻が見られます。目をひくのは木鼻の牡丹の透かし彫りで、花びらが立体的に見えるだけでなく中が空洞に彫られていて、ふわっとやわらかみのある不思議な作品です。また破風内の瓢箪の透かし彫りは、派手さはないですが瓢箪の丸みや蔦の絡みなどとても繊細で見えて飽きません。

田原神社は地元では「春日神社」とも呼ばれ、歴史と風格を感じる神社で



屋根下の龍や花

す。東殿(旧・田原社/春日社)主祭神は武御雷之男神、経津主神、天津兒屋根命、姫大神。西殿(旧・宇賀社)の主祭神は宇迦之御魂神。この双殿体制は、奈良・春日大社と同様の祭祀構成です。通称「春日神社」と呼ばれる由縁です。

出雲国風土記に「田原社」として記され、東殿はその社に比定されています。

す。西殿は松江城(亀田山)築城に伴い、堀尾吉晴により移された「三所荒神」が起源とされます。江戸時代の延宝2年(1674年)、東西両殿が合祀され現在の形になりました。

そのうち松江歴史館で開催されていた企画展「松江の名工 小林如泥ーその技、神の如しー」を観覧し、学

芸員の大多和弥生さんから如泥の生涯や技の秘密、松江に残る作品を紹介いただきました。

小林如泥はその名が示す通り、酒を愛し酒にまつわる逸話を多数残した人物でしたが、それ以上に職人としての卓越した美意識と技術で知られています。

如泥の作品群は静謐かつ緻密な造形美を特徴とし、茶道具や建具、透かし彫りなど、機能と芸術性を高い水準で融合させました。それ



松江歴史館

らは藩主・不昧公の信任を得て、松江藩の文化振興に大きく寄与しました。保管されている工芸品だけでなく、松江市内では白湯大工町の歳徳神の宮、月照寺 大圓庵の廟門、賣布神社 幣殿の彫刻等、街の中で観ることもできます。ぜひ探しに出かけて見てください。

大社國學館入学案内

詳細は直接大社國學館までお問い合わせ下さい。

《所在地・照会先電話番号》

大社國學館

〒699-0701 島根県出雲市大社町杵築東283

電話 0853-53-2020

《入学試験日・内容》

- 第1次 令和8年2月20日(金)
 - 第2次 令和8年3月21日(土)
 - 第3次 令和8年4月10日(金)
- 筆記試験(国語・国史・作文)及び面接

《募集人員》

普通課程Ⅱ類(本科生) 15名
同(選科生) 若干名
予 科(別科生) 若干名

《出願手続締切》

- 第1次 令和8年2月15日(日)
- 第2次 令和8年3月16日(月)
- 第3次 令和8年4月5日(日)

支部だより

出雲支部平田部会

諏訪神社 宮司 佐々木 祐

パワースポット 韓竈神社

出雲市唐川町に鎮座する韓竈神社は、
出雲国風土記(七三三年)に韓竈社、延
喜式神名帳(九二七年)には韓竈神社と



鳥居

記載され主祭神は素戔鳴命を祀ります。その後江戸時代には八王子大明神とも呼ばれました。

社名のカラカマの「カマ」は祭神の素戔鳴命が御子

神と共に新羅に渡られ、我が国に植林法やたたら製法、鍛冶技術などの「鉄器文化」を伝えられたという伝説から「釜」を意味するとされております。当社の奥部の北山山系が、昔より産銅地帯と言われ、「金堀り地区」の地名や自然銅、野たたら跡などが見られることと、鉄器文化の開始と深い関係があると思われます。

江戸時代の書物「雲陽誌」には、古老伝に「素戔鳴命が乗り給ひし船なりとて、二間四方ほどの平岩といふ。」と記載され、素戔鳴命が渡来された際に使用した



急峻な参道

という岩船が残されています。この岩は、本社の上へ西方より屋根の如く差し出たる故に、雨霧も当たらず世俗に「産み石」と言われています。社の入り口は、横一尺五寸ばかり、高さ八尺ほどの岩穴となっており、奥の方まで二間ばかりあり、これが社までの通路となっています。この岩穴を女性の産道にみたてての安産祈願が絶えず、ここで子どもを授かったという話も多数聞きます。

また岩船伝説は、鰐淵寺開山智春上人が信濃国から来られた時、老翁三人が船で出迎えられたといえます。その時の一



石段三百段

人が唐川の智那尾権現で、乗っていた船の本体が智那尾権現に岩船として現存しております。後一人は別所の白瀧権現、もう一人は国富の旅伏権現です。

社までは急な石段が三百段あります。特殊神事は山神祭の新旧当家の引継ぎ神事。新旧当家は御神酒を一本ずつ御神前にお供えします。宮司が祝詞奏上後、新旧当家の引き継ぎを行います。汁椀十六cm位のフタに御神酒を注ぎ一人二杯を空けます。当然無理ですので、当日出席の総代や参拝客の皆様にも助けてもらいます。その後、当家の引渡しで

終了です。こういう伝統行事をいつまでも守り伝えていきたいと思っています。



韓竈神社

神社フォトギャラリー

神社の社殿、神事、神賑行事、神社を含む四季折々の風景など、様々なお写真を募集します。

〒六九九・〇七〇一

出雲市大社町杵築東二八六

島根県神社庁 録事 高見幸子 あて

写真送り先 Eメール takami@shimanejincho.or.jp

※ 神社名、神事・行事名や所在地、提供者のお名前を記載の上、お送り下さい。

随時募集中

編集後記

いつの時代も、エンタメとは世を動かす力があるようだ。

この秋、小泉八雲の妻セツを主人公にした『ばけばけ』がNHKの朝ドラで始まった。時代は江戸から明治の混乱期、松江藩下級武士の家に生まれた主人公が、世の変化に翻弄されながら道を切り開いていく話のようで興味深い。

最近の大ヒットした映画『国宝』『鬼滅の刃』、大河ドラマ『べらぼう』、これらに共通するのは、庶民が生み出した日本文化を守り伝えてきたという点ではないだろうか。『国宝』は庶民の娯楽芸能の継承、『鬼滅の刃』は神楽や刀鍛冶の技術を、『べらぼう』は芸術と出版文化の拡大。それらは『クールジャパン』として、海外でも注目、評価されている。

神社を始め美しい文化、歴史的建造物、伝統が残る島根。私たち神職もそれらが後世に継承され、日本の世つくりになかされるよう努めてまいりたい。

(江)

島根県神社庁報(第三六七号)

発行日 令和七年十一月二十日

発行者 島根県神社庁

編集 広報委員会

委員長 陶山 浩正

委員長 島屋尾 浩

委員長 委員 鳥居 正嗣

委員 江角 恵

委員 石崎 彰矩